

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2774002170		
法人名	有限会社 岸本総合企画		
事業所名	グループホームアミティ豊中		
所在地	豊中市蛍池南町3丁目8-1		
自己評価作成日	平成 22年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774002170&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 23年 1月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「その人らしさを大切に 住み慣れた町で仲良く ゆったり 豊かに 楽しい生活を」を基にして、季節の移ろいを感じていただけるように、季節行事を充実させ、お花見やバーベキューの際には、家族様にも参加していただき、共に楽しんでいただけるように努めています。

その他、生活と医療のバランスを考え、出来る限り自立した生活を送っていただけるよう、入居者様の「出来ること。」「出来ないこと。」を見極め、入居者様に不安や混乱を極力感じていただかないように努力しています。

薬に関しても、必要最低限の服薬で、副作用を出来る限り少なく過ごしていただけるようにしています。医療的には、早期発見、早期対応を心掛け、主治医や担当医と連絡を密にとり、家族様に相談し、本人様に安心して過ごしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は地元出身で、自治会役員もこなしており、地域に貢献したいという思いから自らの土地にホームを開設し、地域とのつながりは密接です。玄関の内外や共用空間には季節の花や多くの豪華でカラフルな造花、絵画、季節感のある手作りの壁画もあってほっとする家庭的な温かみがあります。家族には毎月、利用者の生活ぶりや行事での様子がわかる写真を添付し、行事予定や医療受診の予定、その月の介護の目標を書いた「アミティ通信」を作成して送付し家族に喜ばれています。気配りのある管理者、行き届いた介護計画とサービス、医療面での十分な配慮のもと、チームワークの良い職員が利用者に対し優しく丁寧な雰囲気です。利用者はゆったりと安心して過ごすことができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室横に掲示しており、出勤時、退勤時、目に付くようになっており、1人1人が確認できるようにし、スタッフ全員が内容を理解し、ユニット会議では、個人個人の入居者様にとってのその人らしさを話し合いケアにつなげている。	「その人らしさを大切に 住み慣れた街で 仲良く ゆったり 豊かに楽しい生活を」の理念を掲示するとともに、運営会議、スタッフ会議、ケア会議等の定例会議や毎日の業務を通じて方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接した公園に職員や入居者様と近所の方々との団欒の場がある。職員は出勤時、退勤時に挨拶や会話を交わしている。 月1回金曜日にクラブを開催しており、その中の1つに喫茶クラブがあり、近隣の方を数名招き入居者様と共にお茶をしていただいている。 地域とのつながりとして、運動会や盆踊り、餅つき等に参加させて頂き、近くの神社のおみこしが町内を練り歩く際、ホームの前で止まり、見せて下さる。 歌や踊りのボランティアや近隣の小学生が来訪し勉強会を開催している。	地元出身で自らの土地に複数のホームを開設し、自治会役員もこなす法人代表と地域とのつながりは密接です。地域の運動会や盆踊りなどの地域行事に参加し、ホーム前には神輿もきます。月一度の「金曜クラブ」の日に催す「アミティ喫茶」には近隣の人も訪れ利用者と交流しています。利用者は訪れてくれる学童保育の小学生や体験学習の中学生と交流し、また、ボランティアと一緒に歌や民謡、フラダンスを楽しんでいます。ホームは災害時の避難場所として登録され、救急救命資格を所持した職員が多くいることから、市民救命サポーター・ステーションとして指定を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	月に一回金曜クラブを開催しており、その中に「アミティ喫茶」と称し地域の方々を招き、直ぐに入居するのではなく、ホームの中や入居者様を知っていただき段階を経て入居できる体制を徐々に構築している。 電話相談に対しても、おおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービス等の紹介をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2～3ヶ月に1回開催し、入居者様の状態や地域の行事への参加、今後の行事の予定、クラブ活動等の催し法令改正に伴いスプリンクラーの設置や災害の日に非常食を試食した様子等を報告している。 メンバーの方から、地域の行事への参加のお誘いやウエスの寄付等入居者様へのサービスの質を向上させる為の助言や地域の方々との交流の橋渡しをしていただいている。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、知見者、利用者、家族の参加のもとで開催され、その頻度も今年は概ね2ヵ月に1回のペースで行われるようになりました。会議では事業所の運営状況や多くの行事について説明し、自動火災通報装置やスプリンクラー設置、避難訓練や防災食の試食結果、今後の地域との交流の深め方などの話し合いをしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護職による吸引器の取り扱いについて市としての見解を尋ねたり、書類提出等で月1回は市の窓口を尋ねるようしており、気軽に相談できる関係作りに力を入れている。 そのほか社会福祉協議会からの相談員の受け入れや110番子供の家、市民救命サポーター・ステーションになっている。	市の担当職員とは普段から接触する努力をするとともに、事業者連絡会にも出席して交流・相談をしています。市の介護相談員を受け入れ、「110番子どもの家」や市民の救急救命を担う「市民救命サポーター・ステーション」の役割を担っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切しておらず、すべての職員に徹底している。電子ロック錠に関しても、横に暗証番号を掲示している。 言葉の拘束に対しても、その都度話し合い、行動を抑制するような声掛けは極力せず、入居者様お一人お一人が思い思いに過ごせるよう心掛けている。	身体拘束のないケアを目指して取り組んでいます。外部評価で示された玄関扉の電子ロック施錠については、操作ボックスに暗証番号を表示することにより、暗証番号を見て外出する利用者もいます。利用者には施錠による不安や閉塞感を与えないよう工夫し、外出願望のある利用者には職員の付き添いや見守りで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内でも、日常的に管理者やホーム長が職員とコミュニケーションを取り、不満や意見を聞き、常に職員の心のケアに勤めるよう心掛けている。 人と人のかかわりの中で性格上合う、合わないがあり、時間やタイミングによっても変わってくる。そのことを踏まえ、スタッフ同士で助け合い、交代し合える様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者およびケアマネージャーが対応しており、職員への説明はその都度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、図表を取り入れ、わかりやすく簡素化した上で、それを基に口頭で説明を加え理解していただけるよう工夫している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員さんの定期的な来所により、入居者様からの相談事については、相談員さんから施設側へのフィードバックできる体制を取っている。 家族様に対しては、管理者やケアマネージャーが面会にこられた際等に話を聞き対応させて頂いている。 玄関には、公的な苦情受付機関や介護相談員の来所日をお知らせし、相談、苦情解決の第三者窓口を紹介している。 その他、ホーム内での相談（苦情）受付担当者や相談（苦情）解決責任者を掲示している。	家族との面会時には利用者の生活状況や連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告し、介護計画についても家族と丁寧に話し合っています。また家族には毎月、利用者の生活状況や行事での様子がわかる写真を添付し、行事予定や医療受診の予定、その月の介護の目標を書いた「アミティ通信」を担当者が作成して送付し家族に喜ばれています。苦情受付箱をホーム内に設置したり、市の介護相談員を受け入れて利用者や家族が要望を表せる機会をつくっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で、スタッフより意見を集め、ホーム長は、運営会議に参加し、代表者、管理者と意見交換ができる時間を設けている。 その他、代表者、管理者はスタッフと個別に話し合う時間を設けるように努めている。	職員の改善要望や提案等については定例の運営会議やスタッフ会議、ケア会議等で話し合い、業務に反映させています。資格取得の支援もしています。	今後は定期的に、職員一人ひとりの要望や希望を表出する機会を設けられてはいいのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフと会話する時間を多く持つようにしており、ストレスの軽減や予防、研修への参加希望等に耳を傾けている。 各スタッフのレベルに応じた研修への参加要請も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミニケアレポートと称し、毎月課題を決めて提出してもらっている。 外部研修は機会があるごとに職員のレベルに合わせて参加している。 研修に参加した内容によっては、研修参加者がホーム内で講師となり、内部研修を開催したり、回覧研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や地域のグループホームの合同運営推進会議に参加させていただき、研修や事業所で抱えている悩みを相談する機会を設け、活発に意見交換や交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当時は不安が多く、混乱されていることも少なくない。そのことを踏まえ、コミュニケーションの時間を多く持ち、各スタッフを信頼し、安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談では、おおむね状況説明をして下さるが、来訪されてからは、相談できる場所は設けているが、初回より話される家族様は少なく、何度か来訪されるうちに信頼関係が築け、辛かった日々の話を打ち明けられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時におおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のことや調理のこと、時には女性の入居者様に味見をして頂いたり、男性の入居者様には、ちょっとした家具の配置変えを手伝っていただいたり、昔の風習や方言等教えていただいたり、漢字やことわざを尋ねたり、相談したり一緒に考えたり出来るように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時には、職員との意見交換が出来る時間を設けており、現在の状況や生活暦、本氏からの言動等の疑問を相談し今後のケアの方針を話し合うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの開放により、馴染みの人の来所はなされており、時々電話での連絡もあり、本人様におつなぎしている。	利用者が大切にし、大事に思う馴染みの関係が途切れないよう支援をしています。利用者が年賀状や手紙を出したり、高校や大学時代の同窓生、以前入所していた施設の友人の来訪についても支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケや園芸、手芸等のクラブを作り、得意な事、昔されていたことに参加していただいている。その中で馴染みの関係を作り、共に作業したり、お互い助け合ったりされている。 日常生活の場においても、入居者様同士困っておられたら助け合う関係が出来ているので、人間関係を考慮し、席を考え、入居者様同士親睦を図れるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護度の関係や入院治療等の理由で退所された方に対しても、電話連絡やお見舞いに行き、本人様の容態や、家族様の悩みを尋ねるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らし方をたずね、それに沿って支援できるよう心がけている。本人様から聴取が困難な場合は、家族様より生活暦や趣味等を聞き、本人様に楽しんで頂ける様に心がけている。	日々の暮らしの中で利用者や家族が語る希望や思いを「生活歴追記シート」に記入し、職員間の情報共有化を図り、実現に向けて支援をしています。俳句の好きな方やことわざが得意な方がその力を発揮できる場面をつくり、造園士の資格のある方がベランダや屋上の菜園で楽しめる機会を提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際、所定の用紙を家族様に記入して頂きその情報を元に本人様とコミュニケーションを取り、情報を得ていくようにしている。入居された後、家族様と信頼関係が徐々に構築され職員との会話の中で、本人様の情報をお教えいただいた際に記入できる生活歴追記シートを使用し全ての職員が出来る限り同じ情報量を共有できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操や水遣り、昼寝等習慣化された事やその日の状態によって、1人、ひとり違った一日を過していただいている。又、一人、ひとりが日々過されていく中でも、有する力が変化して行く事を頭に入れ接し、何気ない動作の中にもいつもと違う何かを感じ取れるようにし、総合的に判断、把握できるように努めており、その日の出来る事、出来ない事を判断し、その場、その場で、対応を変える様に心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に面会時、希望、要望を聞くだけでなく、現場職員の意見を反映する為にケアプラン会議や概ね月1回程度のフロアーミーティングにより話し合う場を設けている。	介護計画は3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は介護計画の援助内容を転記した「ケアチェック表」を使ってサービス項目毎に毎日モニタリングを行い、月毎のスタッフ会議でカンファレンスを行っています。3ヵ月毎に各利用者についてケア会議を開催し、次の介護計画の方向性と内容を決め、計画作成担当者が「介護サービス計画表」にまとめ、家族に説明して了承を得るという丁寧な方法で実施しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきや発見、入居者様の言動を記入するようにしており、書き方を統一するように心がけている。 ケアチェック表にはケアプランも記載されており、毎日サービスが提供できたかチェックする枠が設けられており、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等家族様の意向により職員や管理者が付き添い出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	選挙や敬老の集い、市民健診等に参加し、小学校や中学校に出向いる。 その他、地域の季節行事も介護相談員の方から声を掛けていただき参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からかかりつけ医が居られる場合は、入所されてからも継続していただけるよう体制を取りドクターと事業所との信頼関係を構築し保てるよう心掛けている。 病状が変わられた場合に関しても、本人様、家族様と相談し、新規に病院と本人様、事業所の信頼関係を築けるよう心がけている。	ホームは協力医療機関の医師に依頼し、ホームの負担で月1回の検診を実施しています。また、検診結果は家族に報告しています。利用者は必要の都度、希望により協力医療機関の医師か、以前からかかりつけの医師による往診、もしくは受診を受けています。日常では職員として配置されている看護師から必要な看護を受け、通院介助も行っています。協力病院と連携し、急変時の対応について、体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡ノートを作成している。 その他にも、口頭での指示、実際の手技を観て看護師がいない場合でも、出来る範囲で支援している。 受診の際も、本人様の状態を看護師に伝え、本人様の状態を把握し、適切な医療、処置を受けることが出来る様、出来る限り看護師も立会い受診している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心掛けており、入院された場合は、入院された医療機関に、なるべく短いスパンでお見舞いに行き本人様の状態を直に観察し、ドクターや看護師から状態の予後を聞き早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームの限界を説明し、理解していただいております。家族様とは、面会の際、常に話し合いの時間を持ち、終末期の方向性を検討し、主治医や看護師から助言をいただき、本人様の意向になるべく添えるようにしています。	ホームでの看取り実施の方針はありません。しかし、利用者が重度化した場合でも、できるだけ長くホームでの生活が継続できるよう支援するため、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞いています。重度化した場合でもかかりつけ医と連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合いを行い、対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はほぼ全員普通救命講習を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに登録している。 定期的にミニケアレポート等で緊急時の対応を再確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会においてマニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。 消防署の講習も受講している。 9月1日の防災の日に、非常食を食し、入居者様の食事形態に合わせ食していただいた。	災害に備えるマニュアルを作成し、年2回の自主避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄をしており、防災の日には非常食の試食会をして防災意識を高めています。ホームは災害時における地域の避難場所としても指定されています。ホームが市民救命サポーター・ステーションに指定されていることから、AED（自動体外式除細動器）の訓練も実施しています。	今後は、年2回の消防避難訓練のうち1回は、消防署の指導のもとに実施することが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいやプライバシーについては会議や内部研修、ミニケアレポートのお題としても取り上げ、個人レベルでも勉強し、徹底している。日頃のケアの際も、耳障りな表現や不適切な声掛け等を互いに注意し合える関係作りをしている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員採用時に、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	本人様の希望や要望を理解力に合わせた表現方法で納得して頂き、職員には決定権は本人様にあることを徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念にもあるように「その人らしさを大切に」を念頭に置き日々業務を優先するのではなく、まずは共に座りコミュニケーションを密にすることを優先し、笑顔が見られる対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人様に服を選んでいただいている。 基本的にはホームへ来訪し行なっているが、理容、美容に関しても、希望に沿える様な体勢をとっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、食事用マット拭き、机拭きには参加していただけるが、入居者様の身体的、病状的には、調理には参加していただけない。 調理に関しては、原材料を持ってきたいただき、料理が出来るまでの音やにおい、時には味見をして頂き、楽しんでいただいている。 箸や茶碗、湯飲みに関しては、使い慣れたものを持ってきたいただき使用していただいている。 希望があれば、外食やホームでお好み焼き、たこ焼きを作り食していただいている。	生食材を食材業者から取り寄せ、ホームで調理しています。利用者は野菜の下ごしらえや食事準備、調理、後片付けなど得意な分野で参加しています。職員は利用者と同じものを一緒に食べながら食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートを行い、楽しい会話と和やかな雰囲気作りをしています。月に1度は外食、利用者の好みのメニューやおやつを手作りし、楽しんでいます。また、家族も参加してバーベキューパーティを楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の補給量、食事の摂取量をケアチェック表に記録し、全職員が情報を得られるようにしている。 水分に関して、嚥下困難な方に対しては、トロミをつけ、コップで飲みにくい方に対しては、吸い飲みで提供している。 食事に関しても、咀嚼の状態に合わせて、刻みやペーストを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時の歯磨き、口腔ケアを実施している。 又、歯磨きが困難な方には口腔ケア用のウェットティッシュで清拭させて頂いている。 義歯使用の方には、適宜ポリドントを使用し洗浄させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人、ひとりの排泄リズムを把握するため、チェック表を作成し、パターンをつかむよう心掛け、声かけを行っている。拒否もあり、難しい点もあるが、普通の下着、紙パンツ等段階を経ている。オムツの方でも、出来る限り、座り排便していただけるよう支援している。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。前誘導によってトイレでの排泄支援を行った結果、布パンツに変わり自立に成功した事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やホットパック、着座して頂き腹部マッサージを行う等支援させていたっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの都合を優先させるのではなく、入居者様の気分やその日の体調で判断し、極力本人様の希望に沿えるようにしている。	利用者は平均して週3回の入浴を楽しみ、希望すれば毎日でも入浴できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人、ひとりの生活習慣をなるべく崩さないよう心掛け、一日の中で睡眠時間を確保している。また、レク等も強制せず、帰宅される方は自由にいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状、服薬に関して申し送りノートに記し、薬を組む者、確認する者、服薬支援する者、その薬が本人様のであるか確認する者、という風に薬に関する確認は二者確認しており、入居者様全員の内服に関しては、写真入で作用、副作用を確認できるようファイルを作っており、職員全員が閲覧している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性入居者様は机運び等を、女性入居者様は裁縫等を自らされている。又職歴や趣味を活かせるお手伝いをお願いしている。 懐かしい歌の番組やビデオを見ていただくと口ずさまれる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上への外気浴や、散歩、近所の公園には出かけているが、拒否もあり、毎日は難しい。 ベランダにプランターを置き、野菜や花を植え水遣りをしていただいている。本人様の希望はつものものの、場所等により家族様の都合もあり実現は困難に近い。	季節のいい時には、日常的に花壇のある隣の公園やスーパーへの買い物に出かけています。また、近隣にある同系列のグループホームに相互訪問したり、屋上での外気浴や菜園での野菜の収穫、近くの空港で離発着する飛行機を見る等、楽しんでいます。季節の花見にも家族を誘って出かけていますが、重度化した利用者は色々な場所への外出や、遠出をする機会が少なくなっている状況です。	ホーム内にこもりがちの利用者にとって、外出はストレスを発散し五感の刺激を得られる貴重な機会です。重度化に伴って利用者が一緒に出かけることが困難になる中、個別もしくは少人数での外出の機会を増やす試みをされてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の際は所持していただいているが、物盗られ妄想の方もおられ、自己管理は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事務所へご案内し、電話をかけていただいている。手紙や葉書もお勧めしている。時間帯によっては、フロアーからも電話できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンになっており、視、聴、嗅覚で料理を感じていただける。 毎月ボードに装飾をして季節感を出している。 カーテンを2重にする等不快な光を極力なくし、各居室、リビングの照明に関しても段階的に調節できるようになっている。	玄関の内外や共用空間には季節の花やカラフルな造花が多数あり、絵画や利用者が手作りした季節の貼り絵も飾る等、温かみのある空間を醸し出しています。リビング兼食堂ではオープンキッチンからの料理の音や匂いが漂い、ソファも配置し、手狭で雑然とした中に団らんでできる家庭的雰囲気があります。共用空間は、利用者が長時間過ごしたいと思える居心地のよい居場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二人がけのソファを置き、お一人や気の合う者同士でくつろいでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用しておられた家具や寝具等を、入居時に出来る限りもって来ていただき、使用していただいている。 カーテンは、防火カーテンを使用しているため、ホームの物を使用している。	居室の入り口には懐かしい歌詞や絵が描かれた表札があります。居室には利用者の好みのベッドや整理ダンス、いす、机、ご主人の肖像画、仏壇、遺影、家族の写真、人形、時計、テレビ、小物等があり、居心地よく過ごしやすい雰囲気になっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターや玄関には、解除番号を掲示している。 各居室には、手作りの表札を作り、トイレに関しても手作りで案内や札を作り、わかりやすいよう配慮している。 動線にはなるべく物を置かず、十分なスペースを確保している。		